

●水環境・湖沼（2） （1-B-10-4～1-B-11-4, 1-B-09-4）

本セッションでは、湖沼水質と生態系との関係についての研究、湧水場所特定調査法の開発に関する研究、植生分布の面的な把握を目的とした調査手法に関する研究発表が6題あった。

1-B-10-4 では、湖沼水質に及ぼす植生の影響に関する報告がなされ、爆発的に増加する外来植物の繁茂は、湖沼水質の変化に影響を及ぼす可能性があることが示された。1975年から33年間の本モニタリング結果は、きわめて貴重であり、今後も調査が継続されることを期待したい。

1-B-11-1 では、人工浮島を用いた植物プランクトンの増殖抑制機構に関する検討がなされ、浮島を形成する抽水植物からのアレロパシー物質が *Microcystis* の増殖抑制に大きく寄与する可能性が示された。浮島構造と植物プランクトンの増殖抑制との関係を現場試験にて検証した本研究の成果は非常に興味深く、今後の発展を期待したい。

1-B-11-2 では、GIS、および水質測定による湧水場所特定手法の検討が発表された。河口から1,800m離れた場所において、山林地起源と推察されるNO₃の豊富な地下水の湧出が示されたが、同時に水温の上昇が認められたことが不思議であった。今後の調査により、さらなる解明を期待したい。

1-B-11-3 では、種々の抽水植物根圏付近から採取された水を用いての微細藻類増殖抑制に関する報告がなされ、植物から分泌されるアレロパシー物質による増殖抑制の効果が示された。

1-B-11-4 では、GISを用いた湖沼沿岸水生植物群落の植生調査手法に関する検討が発表された。

1-B-09-4 では、河川水中の窒素の削減、ならびにケイ酸の供給による植物プランクトン相の変化が報告された。すべての講演において活発な質疑・討論が行われており、この分野の一層の発展を期待させられるものであった。なお、本セッション内の発表に関して異動があったことを文末に記す。

（石巻専修大学・理工学部 玉置 仁）